

1月26日(火曜日)「新しい祝福の中の預言」

【新改訳 2017】

創世記 35・22、49・28

「さて、ヤコブの子は十二人であった。」

「これらすべてはイスラエルの部族で、十二であった。……  
彼は彼らを祝福したとき、おののおのにふさわしい祝福を与えた  
のであった。」

ヤコブは子宝に恵まれ、十二人も男の子が与えられました。  
彼はイスラエルとも呼ばれたため、ここから「イスラエルの十  
二部族」が始まったのです。

実は、神がアブラハムに約束したことが、二代目イサクから  
三代目のヤコブに至って非常に重要な進展をしていました。  
ヤコブは自分の終わりの近いことを悟り、十二人の息子を一  
人一人祝福しました。祝福のことは各々の部族の将来を預  
言するものでもありました。その一つは、やがて来るメシヤ  
(救い主)がユダ族から現れるという預言でした(49・8-10)。

この後イスラエル民族の歴史は、光がかすかにもれる雲の  
空のようでしたが、時至ってメシヤ(キリスト)の大いなる光が

輝いたのです。

～祈り～

主なる神さま。あなたは人の祝福を通して、祝福を与えられるお方であることを感謝いたします。そのことがわかる信仰であらせてください。

**【学びのために】**

ヤコブの 12 人の息子の名前(後の 12 部族の名前でもある):  
ルベン、シメオン、レビ、ユダ、イッサカル、ゼブルン、ヨセフ、ベニヤミン、ダン、ナフタリ、ガド、アシエル(創世 49 章参照)。